

2004 年度 東京蜘蛛談話会 11 月例会

- 1.日時 2004 年 11 月 21 日(日) 10 時より(開場 9 時 30 分)
- 2.場所 東京環境工科専門学校 〒150-0011 東京都渋谷区東 2-5-3
「JR 渋谷駅」東口(東急文化会館側)より, 「学 03 日赤医療センター行」
バスにて約 5 分, 「國學院大學前」下車, 徒歩 1 分, 170 円
- 3.連絡 当日, 東京環境工科専門学校の電話が使用できないので, 緊急時には以下に連絡
ください. 加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
- 4.その他 プロジェクター, OHP 等用意いたします.
- 5.同封のはがきで, 氏名, 連絡先, 出欠, 講演の有無, 講演ありの場合には演題と使用希
望機材(スライド, OHP, コンピュータ)をお知らせください. また, 近況をお知らせ
いただけると幸いです. また, はがき以外の手段で下記にご連絡いただいてもけっこう
です.

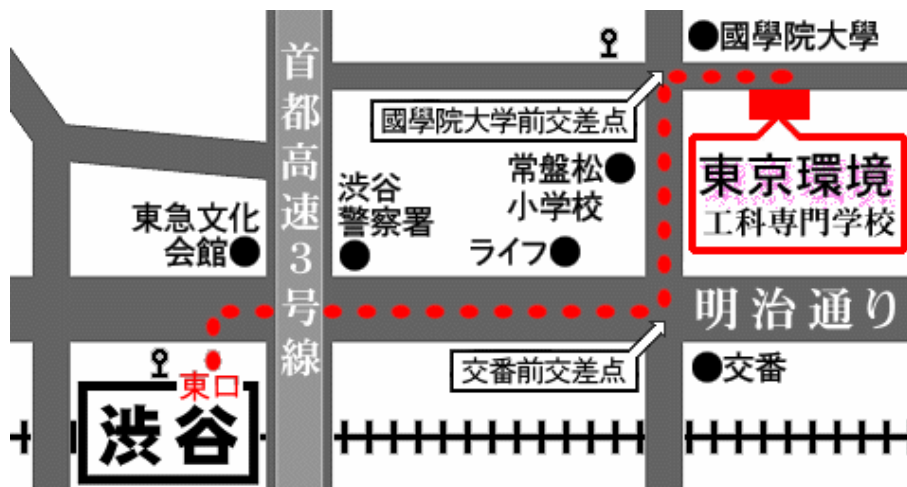
〒186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203 有限会社 エコシス

初芝伸吾

mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp

Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

- 渋谷駅東口から徒歩 15 分です. 坂道がありますので, バスを利用した方がよろしいかと思
います.
- 東京環境工科専門学校及びその周辺には駐車場ありません.



2004 年度採集観察会

1. 期 日： 第3回 10月17日(日) 第4回 2月13日(日)
2. 場 所： 秩父多摩甲斐国立公園 御岳溪谷(東京都青梅市)
3. 集 合： JR 御嶽駅に 10:30 頃
4. 世話人： 初芝伸吾, 甲野 涼
5. 問合先： 東京都国立市東 3-11-18-203 エコシス内 初芝・甲野
Tel: 042-501-2651 E-mail: hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp
6. 交 通： JR 御嶽駅まで新宿から 1 時間 45 分, 立川から 55 分かかります。
ダイヤ改正がありますので, 時刻は各自ご確認ください。

(参考) 2004.3 月現在

- ①JR 立川発 9 時 15 分 ホリデー快速おくたま・あきかわ号
(前 6 両に乗車, 後ろは五日市行きに切り離されます)
 - ②JR 立川発 9 時 34 分青梅行き,
終点青梅で奥多摩行きに乗り換え, 御嶽駅で下車
7. その他
- ・遅れる方は 090-9370-4950 (甲野) までご連絡下さい。
 - ・集合場所の JR 御嶽駅から採集場所は徒歩 5 分ほどです。
 - ・JR 御嶽駅周辺ではお弁当を買えませんので, 昼食はご持参下さい。

2004 年夏・山梨合宿に参加しました

永 井 亜 紀

夏はクモ関連行事に参加することがすっかり職場でバレていて, 同僚から必ず聞かれます。「今年はどこに行くの?」「山梨だよ!」「クモのことになると, うって変わって元気だね」「えへへ」——. というわけで, 今年も 7 月 24~26 日の合宿に参加しました。参加者は総勢 30 人。JR 身延線・市川大門駅から車で小 1 時間くらいの山奥の秘湯(?) 赤石温泉に宿泊しました。

この宿, 古い感じの建物で, なんだか迷路みたいでしたが, 部屋の中にいろいろなクモが出ました。私たちの部屋では, ユカタヤマシログモが毎朝, 姿を見せました。食事をした広間では朝晩必ずといっていいほどオオハエトリが畳の上や窓のところに, 巨大なコアシダカグモも風呂場や部屋で出たとか。初日は, 蛾の研究をしてるグループも同宿していて, 夜になると宿の駐車場の脇にシーツを広げてライトを照らし, 蛾の採集調査(っというのか?)をしてました。虫好き・クモ好きに最適の宿だったのかも?

談話会合宿は集合時間が夕方5時ごろで、まず夕食から始まるのが定番。夕食のときには普段どんなところでクモを見るか、などを交えた自己紹介があって、1年に1回しかお会いできない方のお話など、なかなか興味深いです。そして夕食後は夜間観察へ。

以前はクモ合わせのときに必死に全部のクモの名前を書き取ろうとしていたのですが、どうにも間に合わないし、そんなにたくさんいっぺんに覚えられない。もと

もとボーっとした性格なので、あとでメモを見ても記憶があいまいになってしまいます。そこで最近は「自分で見つけたクモ」「見せてもらったクモ」「覚えたいクモ」というふうに分けてメモを取る方法に変えてみました。今回、初日夜のクモ合わせで初めて聞いた名前が「シノビグモ」。これは、「覚えたい!」のリストに入れました。

翌日、氷室神社での観察会で、なんとシノビグモを見つけることができました。あまり水の流れが激しくない沢で石をひっくり返していたら出てきました。この合宿でシノビグモを見つけたのは、八幡さん、貞元さん、そして、私? うーむ、これってスゴイんじゃない? と嬉しくなってしまうのでした。でも嬉しくなるのが正解なのかどうか・・・? 変わりモノ度レベルアップって感じも? それはともかく、シノビグモはとても奥ゆかしい色あいで、きれいなクモでした。

午後は、どんつき林道というところへ。ここではマネキグモが捕食しているのを見たのが印象的でした。前足で糸をしっかりとつかみ、残りの足で獲物にクルクル糸を巻きつけていて、体操の吊り輪のようなアクロバティックな姿でした。それからコケオニグモができました(発見者:八幡さん)。まるまる太ったコケオニグモで、みんなで順番に写真を撮らせてもらいました。

夜は岩下林道へ。ここはトリノフンダマシがたくさんいるところ。トリノフンダマシ、オオトリ、シロオビ、アカイロ。私はアカイロトリノフンダマシを初めて見たので嬉しかったです。それから、とても不思議な縦に長い糸の束というか、カーテン状になったようなものを見ました。これ、なんだろうね・・・とひとしきり観察。分散したときの糸では? ということになったようですが、本当のところは何だったんだろ



シノビグモ



マネキグモ

う？

最終日は、朝から雨模様。そのため観察会に参加せずに帰った方も多かったのですが、なんと、一宮浅間神社で観察を始めて間もなく、雨も小降りになり、柿の葉の裏にムツトゲイセキグモが出ました（発見者：また八幡さん）。「出たぞ〜」と、どこからともなく声がかかり、三々五々散っていた人々が集合。ぬかるみに足を突っ込みつつ、順番に眺めたり、写真撮影をしたりしました。ムツトゲイセキグモは、私が思っていたよりもずっと透明感があって美しいクモでした。ここではオダカグモも見ることができたし、沢で思う存分、石をひっくり返したし、面白かった……。来年は佐賀で合宿とのこと、今から楽しみです。

番外編：またもや何かが起きそうな宿・・・？

談話会合宿といえば、風呂にまつわる事件が起こることです（と決め付ける）。昨年もその前の年もそうした出来事に巻き込まれ気味だった私は、赤石温泉に着いてすぐ「うーむ、またもや事件のにおいが…」と部屋にあった入浴案内を見て思いました。だって、お風呂に入れる時間帯の大部分が「混浴設定」?! 女性専用の小さな風呂や「女性専



ムツトゲイセキグモ

用時間」が設けられていたので不自由はなかったのですが、わざわざ「専用時間以外もどうぞお入りください」って脱衣所に書いてあったのには笑いました。ちなみに風呂場の構造は、ひとつの岩風呂に出入口が2か所あって、それぞれが男性脱衣所、女性脱衣所につながっています。どうやら風呂場での男女遭遇はなかったようですが、事件好きの私は何か起こらないかなあ、とちょっと期待してたんですけども……。

山梨合宿で観察採集したクモ

（集約 谷川明男）

現時点でのあいうえお順和名一覧です。これ以外のクモを採集された方がいらっしゃいましたら谷川までご連絡ください。

アオオニグモ、アオオビハエトリ、アオグロハシリグモ、アカイトトリノフンダマシ、アサヒエビグモ、アシナガグモ、アシナガサラグモ、アズマヤチグモ、アマギエビスグモ、アメイロハエトリ、アリグモ、イオウイロハシリグモ、イシサワオニグモ、イタチグモ、イナズマハエトリ、イナフクログモ、イマダテテングヌカグモ、ウススジハエトリ、ウツキコモリグモ、ウラシマグモ、ウロコアシナガグモ、エクスハエトリ、エゾアシナガグモ、エゾウズグモ、オウギグモ、オオクマヤミイロオニグモ、オオシロカネグモ、オオツリガ

ネヒメグモ、オオトリノフンダマシ、オオハエトリ、オオヒメグモ、オダカグモ、オツヌ
ヤミサラグモ、オナガグモ、オニグモ、ガザミグモ、カタハリウズグモ、カニミジグモ、
カバキコマチグモ、カラカラグモ、カラスゴミグモ、カラスハエトリ、カラフトオニグモ、
カワベコモリグモ、キジロゴミグモ、キノボリキヌキリグモ、キハダカニグモ、キベリミ
ジグモ、ギボシヒメグモ、キララシロカネグモ、キレワハエトリ、ギンメッキゴミグモ、
キンヨウグモ、クサグモ、クスミサラグモ、クマダギンナガゴミグモ、クマダハナグモ、
クラークコモリグモ、クリチャササグモ、クロサワフクログモ、コアシダカグモ、コウラ
イササグモ、コガタコガネグモ、コガネエビグモ、コガネヒメグモ、コクサグモ、コケオ
ニグモ、コゲチャオニグモ、コシロカネグモ、コハナグモ、ゴミグモ、コムラウラシマグ
モ、コンピラヒメグモ、ササグモ、サツマノミダマシ、ジグモ、シノビグモ、シモフリヒ
メグモ、シモフリミジグモ、シモフリヤチグモ、ジョロウグモ、シラヒゲハエトリ、シ
ロオビトリノフンダマシ、シロカネイソウロウグモ、スネグロオチバヒメグモ、セスジガ
ケジグモ、セマルトラフカニグモ、センショウグモ、タカユヒメグモ、タテヤマテナガグ
モ、タニマノドヨウグモ、チクニドヨウグモ、チビコモリグモ、チュウガタコガネグモ、
チリイソウロウグモ、ツノケシグモ、ツノナガイソウロウグモ、ツリガネヒメグモ、ツリ
サラグモ、デーニッツハエトリ、トウキョウウズグモ、トラフカニグモ、トリノフンダマ
シ、ナガイヅツグモ、ナガコガネグモ、ニシキオニグモ、ニホンヒメグモ、ネコハエトリ、
バラギヒメグモ、ハリゲコモリグモ、ビジョオニグモ、ヒメウスイロサラグモ、ヒラタグ
モ、ヒロハヒメグモ、フタオイソウロウグモ、フノジグモ、ボカシミジグモ、マガネア
サヒハエトリ、マネキグモ、マミジロハエトリ、マルヅメオニグモ、ムツトゲイセキグモ、
ムツバハエトリ、ムツボシオニグモ、ムナボシヒメグモ、ムネグロサラグモ、ムネグロヒ
メグモ、ムラクモヒシガタグモ、メガネアサヒハエトリ、メガネドヨウグモ、ヤエンオニ
グモ、ヤサガタアシナガグモ、ヤハズハエトリ、ヤバネウラシマグモ、ヤマオニグモ、ヤ
マゴミグモ、ヤマジグモ、ヤマジドヨウグモ、ヤマジハエトリ、ヤマシロオニグモ、ヤマ
トガケジグモ、ヤマトカナエグモ、ヤマトゴミグモ、ヤマヤチグモ、ヤミイロオニグモ、
ヤリグモ、ユカタヤマシログモ、ユノハマサラグモ、ヨツデゴミグモ、ヨツボシサラグモ、
ヨリメグモ、ワカバグモ、ワキグロサツマノミダマシ

入試問題に出たクモたち

新 海 明

1988 年 3 月。それまで勤めていた私立中高を退職した。バブルの絶頂期でもあり、次の仕事のあてもないままに「なんとかなるさ」とばかり、とりあえず口に糊するためだけに「受験塾」の講師となった。それから 16 年も経ち塾講師としてのキャリアの方が長くなってしまった。学校の教師の多くがそうであるように、私も始めのうちは「塾なんてくだ

らネエ」と高を括っていたのだが、ふと気付くとその面白さに結構はまってしまっている自身に気付き赤面することもある。子供たちの真剣な眼差しに出会うと、受験という目的とはいえ、教育の原点を感じさせられることが多々ある。仕事の性格上、合格のための「術」を教えざるをえないが、科学という世界の考え方や見方を、そこに少しでも織り交ぜられないかを模索しながら生徒に向かっているつもりである。

中学校の入試問題とはいえ、最近は科学研究の最前線から素材をとって噛み砕いて試験問題とするものが増えている。私はこのような問題を「素材」問題と名付けている。

たとえば、モンシロチョウやアゲハチョウの雄がどのようにして雌を見分けるか（これは、日高敏隆氏の「チョウはなぜ飛ぶか」）、ミツバチがどのようにして餌のありかを仲間伝えるか（これは、いうまでもなくフリッシュによる研究）などにはじまり、最近ではヒキガエルが産卵する池にどのように辿り着くか（私の師匠でもある石居進氏の「カエルの鼻」）などである。また、高校の教科書で扱われる内容も出現しだした。なんと、DNAの塩基配列に関する設問や遺伝を問うものまである。後者の問題はどう考えてもやりすぎであり、そのうちに文部科学省あたりからクレームがつくはずと睨んでいる。また、是非そうしてもらいたいものだ。こんな設問が続けばそのうちには免疫の仕組みを問うものまで表れそうだ。中学入試での素材問題はあくまで、小学校の生徒らが日頃目にするであろう自然現象に基づき、そこに最新の科学的な知見を噛み砕いて付加して設定すべきであろう。知識がなくても、与えられた条件から考えれば答えに到達できるような問題を工夫してもらいたいものだ。

ここでは、私が塾講師としての仕事上で出会ったクモに関する入試問題を紹介したい。そこには、なんと私の書いた論文をネタにしたものまであった。

(1) ナゲナワグモの誘引とヒメグモ類の色彩変異の遺伝に関する問題

1999年 埼玉大学 理学部

●クモに関する次の文章を読み、問1～4に答えよ。

(ア) クモは原口がそのまま口となる（1）動物の系統に属し、昆虫と同じ（2）動物に分類されるが、いくつかの点で明らかに昆虫とは異なり、分類学上独自のグループを形成している。クモの仲間は世界中で約35,000種が知られている。なかには、ナゲナワグモの仲間のように、変わったやり方で狩りをするものもある。ナゲナワグモは、通常よく見かけるような円形のクモの巣を作らず、代わりに長さ数十センチメートルの水平な糸を1本張り、そこから末端に粘球が付着しただけの糸である「投げ縄」を1本垂らす。このクモは「投げ縄」を脚で持ち、まるでカウボーイのように振り回し、餌となるガをつかまえる。この狩りのために、クモはとても巧妙な手段でガをおびき寄せる。ナゲナワグモのある種について調べたところ、付近には数十種類ものガの仲間が確認されたにもかかわらず、餌となっていたのは、特定の種類だけであった。しかもそのすべてがオスであり、また、ガはいつも風下から接近していた。

クモの仲間は、形や色彩についても変化に富んでいる。同じ種でも、オスとメスでまったく似ていなかったり、逆に、それぞれ違う種のオスとメスがそっくりの模様をもっていたり、また同種であっても、地域によって、その模様の異なるものなどさまざまである。それぞれ別の種に分類されていたオスとメスのクモが交尾をしたので、よく調べてみると同種であると判明したこともある。これほど複雑なクモの形態の遺伝学的研究は、飼育が面倒なこともあり、あまり進んでいない。しかしヒメグモの一種の場合は、その腹部背面の色の遺伝様式が明らかにされている。このクモには、背面が淡黄色の個体、赤色の個体、その中間の個体があって、その形質は単一遺伝子座における 3 つの複対立遺伝子によって調節される。この 3 つの遺伝子の間には単純な優劣の関係が存在し、赤色(遺伝子 O)は淡黄色(L)や中間色(R)に対し優性であり、淡黄色(L)は中間色(R)に対し劣性である。

問 1. 次の設問 a および b に答えよ。

- a. 下線部(ア)の (1) および (2) に入る適当な語句をそれぞれ記せ。
- b. クモは、昆虫とどのような点で異なっているか。主な点を 3 つあげよ。

問 2. ナゲナワグモが餌をおびきよせるのに使っている巧妙な手段とは、どのようなものであると推測されるか。(解答欄 14×3cm)

問 3. 下線部(イ)に関して、次の設問 c および d に答えよ。

- c. ある自然の集団が、「種」として他の同様な集団と区別されるとき、両者はどのように隔離されていると考えられるか。
- d. 設問 c の隔離は進化の過程でどのようにして生じたと考えられているか。(解答欄 13×3cm)

問 4. 次の設問 e および f に答えよ。

- e. 上の文章にあるヒメグモの一種の赤色個体と中間色個体を交雑したところ、F1 では、赤色：中間色：淡黄色の個体が 2：1：1 の比で得られた。このときの親個体の遺伝子型を推測せよ。
- f. 設問 e の場合と異なり、3 組の対立遺伝子(A と a, B と b, C と c：大文字は優性を表す)が、別々の染色体上にあり、それぞれ異なった形質を支配しているとする、ヘテロ接合の個体(AaBbCc)どうしを交雑したときに生ずる個体の遺伝子型として考えられるものをすべて記せ。

これは、大学の入試なのでそれなりのレベルの設問だった。ただ、ナゲナワグモに関する具体的な知識がなくても、解説されている文章を読めば答えはおのずとわかるはずである。また、ヒメグモの一種の体色についての設問は、イギリスのオックスフォードによって発表されたシロタマヒメグモの近縁種についての知見に基づいて作られたものと思われる。クモの遺伝という馴染みのうすいテーマで「ギョッ」とした受験生もあったろうが、高校で習う複対立遺伝についての理解があれば容易に突破できる問題であろう。

さて、これらのクモの問題を出題者はどこから仕入れてきたのだろうか。この設問には

ナゲナワグモとヒメグモの一種の遺伝のほかに、「クモの仲間は、形や色彩についても変化に富んでいる。同じ種類でも、オスとメスでまったく似ていなかったり、逆に、それぞれ違う種のオスとメスがそっくりの模様をもっていたり、また同種であっても、地域によって、その模様の異なるものなどさまざまである」との記述がみられた。これらは、梅谷・加藤編の「クモのはなしⅠ・Ⅱ（技報堂出版）」の中での「投げ縄を操るクモーメスのガのにおいを持つクモー」（ナゲナワグモの問題）「派手なクモ、地味なクモ」（ヒメグモの一種の問題）「似てない夫婦」（引用した「記述」）を下敷きにして、作られたものではないかと私は睨んでいる。興味をもたれた方がいたら設問と「クモのはなし」をもう一度読み比べていただけたらと思う。

なお、この入試問題の存在に関しては、加藤むつみさんに紹介していただいた。記して感謝申し上げる。

【ちょっと横槍】下線部アの（ 1 ）の正答は、前口動物である。しかし、実はクモの原口は口にはならず肛門となる。これは、私の卒業研究のテーマであった。私は卒業研究で、クモの肛門を形成する部分が、ほんとうに原口なのかを証明するために、その部分から細胞が陥入するかどうかを追跡し、細胞の陥入の様子を映画に撮影することに成功した。さらに、カブトガニやイセエビでも原口は肛門になることが証明されている。このことから、動物の2大系統に対して前口動物、後口動物という名称を用いることは好ましくなく、原腸体腔幹、原中胚葉体腔幹の名称を用いるべきであると主張した。しかし、いまだに何の変化もない。私は、25年間の高校教師時代には一貫して、教科書や参考書にはこう書いてあり、入試などでもそれが正解だが、クモやカブトガニなどの原口は肛門になるんだよと生徒に教えてきた。

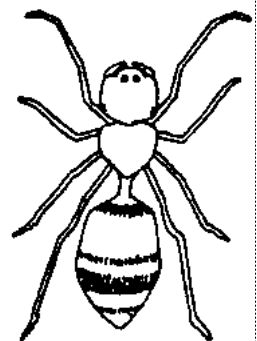
（谷川明男）

（2）アオオビハエトリ（？）の擬態

1999年 麻布中学校

●虫の中には、ほかの虫や植物に似ていることによって、利益を得ているものがたくさんいます。次の①～⑤の文を読み、下の問いに答えなさい。

- ① カマキリのなかまには、木の葉にそっくりなものがいます。緑色の平べったいからだには、葉のすじのような模様まであります。
- ② カマキリのなかまには、かれ葉にそっくりなものもいます。茶色の平べったいからだには虫に食われたようなへこみまであります。
- ③ カマキリのなかまには、ランの花にそっくりなものもいます。うすいピンクのあしはランの花びらにそっくりです。



④クモのなかまには、図のように自分が食べるアリにそっくりなものがいます。8本のあしのうち、いちばん前のあしを頭の前にたてて歩き、アリの列に入りこみます。

⑤カミキリムシのなかまには、強い毒針を持つスズメバチによく似ているものがいます。黒と黄色のしま模様で、しまの数もからだの形もそっくりです。しかし、このカミキリムシは毒を持っていません。

問1. ①～③のカマキリの中で、おもに土の上で生活をしているのはどれですか。1つ選び、その理由も答えなさい。

問2. ①～③のカマキリがまわりのものに似てめだたないことの利点を2つ答えなさい。

問3. いちばん前のあしをあげた④のクモはどのような点でアリに似ていますか。2つ答えなさい。

問4. ①～③のカマキリは自分のまわりのものによく似ていて、どこにいるのかよくわかりません。逆に⑤のカミキリムシは黒と黄色のしま模様がかなりめだちます。このカミキリムシがめだつことの利点を答えなさい。

これは虫の擬態に関する問題で、クモの設問は「いちばん前のあしをあげた④のクモは、どのような点でアリに似ていますか。2つ答えなさい」というものだった。図のクモは、たぶんアオオビハエトリを意識して描いたものではないかと思うが、やや稚拙で判然としなかった。答えは「頭胸部がくびれて頭と胸に分かれているように見える」「いちばん前のあしを上げているために、残りのあしは6本にみえる」ということだろう。前者の答えを意識するあまりに図のようなクモとなって描かれたと推定された（こんなにはっきりと頭胸部は分かれていませんよね）。

出典は不明。クモがアリに擬態することは、かなり多くの一般書でも触れられているので、そのようなものからの引用だろう。

(3) スズミグモの分布の拡大

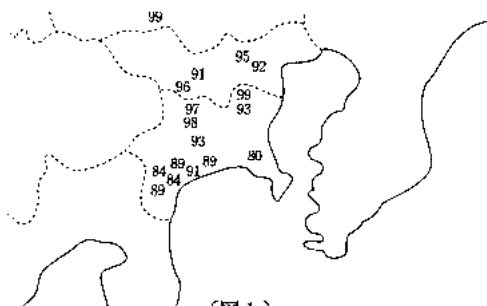
2004年 富士見中学校

●日本にはスズミグモというクモがいます。生息している地域と生息していない地域がありますが、生息している地域が拡大しています。

〔図1〕は関東地方の地図です。数字はその地点でスズミグモが初めて発見された年度を示しています。その地点ではその後も生息が確認されています。

例：図中の93は1993年にその地点でスズミグモが初めて発見されたことを表します。

(1) 次の文章のうち、〔図1〕からわかることは何ですか。次のア～カより1つ選



〔図1〕

びなさい。

ア：スズミグモは明るい風通しの良い林内で生活する。

イ：スズミグモの網にはねばりがない。

ウ：スズミグモのメスはオスより大きい。

エ：スズミグモの生息域はこの地域では毎年確実に 10km 拡大している。

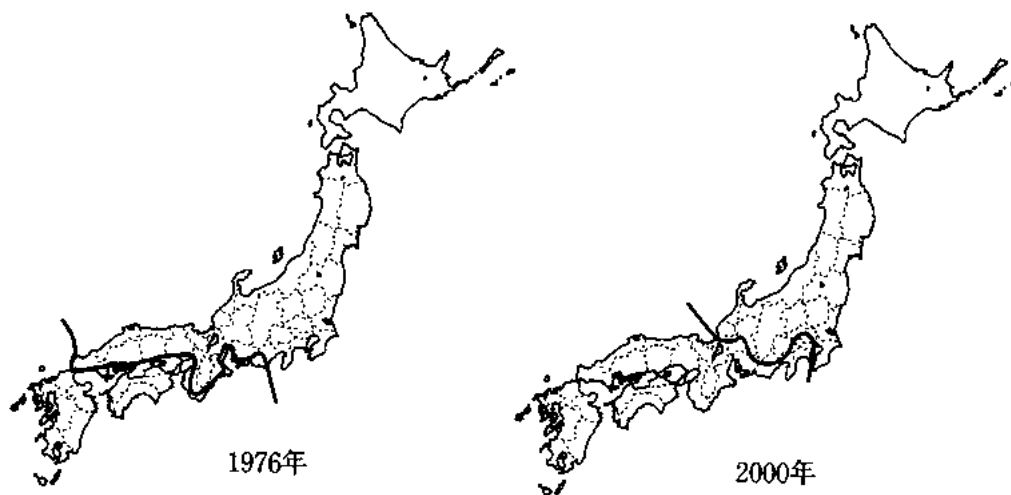
オ：スズミグモの生息域はこの地域では少しずつ北へ拡大している。

カ：スズミグモの生息域はこの地域では変化していない。



スズミグモ

(2) 〔図 2〕の地図上の太線はスズミグモが生息している地域と生息していない地域との境目を表しています。〔図 1〕, 〔図 2〕を参考にしてスズミグモの生息域の変化と関係の深いことがらを次のア～オより 1 つ選びなさい。



〔図 2〕

ア：酸性雨 イ：大気汚染 ウ：地球温暖化 エ：オゾン層の破壊 オ：食物連鎖

「新海さんは、富士見中学校に誰かお知り合いでもいるのですか」と大川秀治さんからお電話をいただいた。「スズミグモの分布の拡大」についての設問があるからだというのである。手元にある「銀本」と仲間内でよばれる電話帳のように分厚い入試問題集を、あわてて広げて見てびっくりしてしまった。私がキンダイアに発表した「スズミグモの分布拡大の記録 (K80)」の図がそこに掲載されていたからだだった。ひょっとすると、富士見中の関係者が談話会の会員になっているのかも知れないが、私に心当たりはなかった。もしかして、そうならばゴメンナサイ。ただ、図 1 をみてハッと気付いた。埼玉県の 00 年

の記録がないのだ。たまたま削除されただけかもしれないが、実はこの図には別バージョンが存在したのだ。それは、キシダイアの原稿の下敷きになったもので、日本生物教育学会東京大会記念誌に投稿したものであった。これは、2001年に出版されて、東京都の小中高、そして公立私立を問わず生物教員に配布されたものである。これなら、さまざまな学校関係者が見た可能性がある。

設問は平易であり、なぜかホッとしてしまった（別に関係ないのだが）。ただ、補足させていただけるならば、私は「スズミグモの分布の北上」が「地球温暖化が原因」なのかはさらに精査した方がよいと考えて、この報告を発表したのだが、ここでは温暖化の証拠とみなされてしまっている。もっとも、日生教の記念誌ではそう読めるように記述しているので、私にも非がある。また、2000年の分布図は山陰地方を含めて描いてしまったが、これはその後に訂正した（K85）。会員諸子にはこちらの図と見比べていただければ幸いである。

中学入試に携わる者が、その素材問題にこのように「超」具体的に遭遇するとは、想像だにできなかった。嬉しいような（悲しくはないが）、それでいて「お尻がむずかるような変な感じがする」といったところが実感であろうか。

情報を寄せていただいた、大川秀治さんにあらためて御礼申し上げたい。

書評 県別クモ類分布図 CD

初芝伸吾・甲野 涼

作成者の1人の谷川明男さんから、県別クモ類分布図について、お聞きしたのはたぶん2年ほど前だったと思います。「今、新海明さんと一緒にデータを打ち込んでいるんだ。」と聞き、その時初めて知りました。そして日本産アリ類全種図鑑CDを目指していると聞き、

きっとすごい物ができるに違いないと期待していました。谷川さんをはじめとして新海明さん、安藤昭久さんが3年4ヶ月もの間、40,340件もの膨大なデータ打ち込み作業に精力を注ぎ込まれた結果、待望の“県別クモ類分布図 Ver.2004”が出来上がったのです。

この“県別クモ類分布図 Ver.2004”はCD-ROMで頒布されています。通常パソコンを使われている方なら簡単に操作できるように使いやすく作られていて、日本地図を使った分布図の表示とエクセル



による県別種名一覧が表示できるようになっています。分布図の方は、クモ和名の一文字目を選択した後に二文字目を選ぶ事ができ、急いでいるときにも便利な様になっています。そして数秒後には情報のある県が一目瞭然であり、さらに日本地図の下方に根拠となる文献も掲載され、すぐに県別に文献を確認できるようになっています。またエクセルによる種名一覧表は県別のリストのみならず、伊豆諸島、小笠原諸島、南西諸島（鹿児島県種子島・屋久島以南と沖縄県）に関しては島ごとに区別したデータが選べるようになっていきます。ただ欲を言わせていただくと、県別の文献が集約されて別シートに表示されるとさらに使い勝手良かったかのではないかと感じました。また個人的には種ごとの写真画像が入っていると更にうれしく思いました。

早速使用した事例を紹介します。今年の9月2日に初芝・甲野で行った丹沢（神奈川県）で「シノビグモ」を採集しましたが、今までに採集記録があるのか？沢近くの石壁に多く見られた「アケボノユウレイグモ」はどうなのか？いざそれを確認するとなると、その作業は非常に面倒な時間の掛かる作業なのです。しかし“県別クモ類分布図 Ver.2004”で神奈川県と入力し一覧を見る、またはシノビグモの県別分布図を見るだけで（たぶん種別の分布図を見た方が解りやすいと思います）分布の有無が一目瞭然で解ります。すぐにシノビグモは神奈川県では初記録と解りもちろん喜びも一入でした。アケボノユウレイグモは既知ではありましたがそれも簡単に解り、本当に便利ですばらしいと実感しました。

これから皆でこの県別クモ類分布図の空き情報を埋めていこうではないでしょうか！そしていつの日か県別ならず市町村、標高、メッシュや緯度経度等で種の情報やその種を取り巻く環境（例えば地形、標高、植生等）をデータ化される日が来るのかもしれないと勝手な夢を見ている。微力ながらお手伝いできることを探しつつ、更にヴァージョンアップされていくことを期待してやみません。

価格は送料共で 8140 円です。購入ご希望の方は谷川明男までご連絡ください。

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 3800 円、学生 2000 円です。

郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。

入退会は：

事務局 初芝伸吾 186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203 （有）エコシス

E-mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

通信原稿投稿先：

通信担当 谷川明男 247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

談話会通信次号の原稿締め切りは 2005 年 1 月末日です。ご投稿お待ちしております。

KISHIDAIA 原稿投稿先：

会誌担当 池田博明 258-0018 足柄上郡大井町金手 1099

E-mail : fwgd9084@mb.infoweb.ne.jp

会費のことは：

会計担当：安田明雄 231-0861 横浜市中区元町 5-219 (TEL : 045-641-0763)

E-mail : kobato@gol.com